

## 2016年度 職業安定分科会における年度目標の中間評価について（案）

2016年度の目標として職業安定分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した中間的な評価の結果は、概ね以下のとおりである。

※ 中間評価は概ね2016年4月～12月の数値に基づいて行った。

### 1. ハローワークにおける職業紹介等

「⑥マザーズハローワーク事業の重点支援対象者就職率」、「⑨就職支援プログラム事業の就職率」については、それぞれ前年度同期及び2016年度の目標の水準を上回っている。

また、「③正社員求人数」、「⑤マザーズハローワーク事業の重点支援対象者数」、「⑧就職支援プログラム事業の開始件数」については、目標達成した前年度同期の進捗度合いを上回っており、目標の達成に向けて順調に推移している。

一方、「①就職率」及び「⑦雇用保険受給者の早期再就職者割合」については、前年度の同期を上回っているが、年度目標を達成するための水準を下回って推移しているほか、「②求人充足率」については、前年度の同期と比べ新規求人数が増加していることなどを背景に2016年度の目標値を下回っていることから、目標達成に向けて、求職者や雇用保険受給者の状況等に応じたきめ細かな就職支援、未充足求人に対するフォローアップなどに更に徹底して取り組む必要がある。

また、「④正社員就職件数」については、求職者数が減少していることなどを背景に年度目標を達成するための水準を下回って推移している。正社員求人への応募の働きかけや正社員を希望する者に対する担当者制等求職者への積極的な支援を徹底する必要がある。

今後も目標を達成するために、引き続きハローワークにおいて、個々の求職者の状況に応じたきめ細かな就職支援を行うとともに、求人充足を図るための積極的・能動的マッチングの推進など求人者サービスの充実に向けた取組を行う必要がある。

「⑩求職者支援制度による職業訓練の就職率」については、2016年6月末までに終了した訓練コースの終了3か月後の実績は、基礎コース及び実践コースともに目標を上回っている。

### 2. 失業なき労働移動の推進

「⑪労働移動支援助成金（再就職支援奨励金）による再就職者に係る早期再就職者の割合」については、2016年12月時点で2016年度の目標を上回っている。

「⑫労働移動支援助成金（再就職支援奨励金）による再就職者のうち、雇用形態がフルタイム労働者（期間の定めなし）である者の割合」については、2015年度実績（4～12月）よりも改善しており、2016年度目標と同程度の水準となっている。本助成金は、今年度、大幅な見直しを行い、良質な雇用が実現した場合の助成の優遇などを講じており、今後も安定的な雇用に結びつくよう取り組む必要がある。

「⑬産業雇用安定センターによる出向・移籍の成立率」については、2015年度実績（4～12月）と同程度の水準となっているが、2016年度目標をわずかに下回る状況となっている。引き続き企業への訪問やキャリアコンサルティングの実施を通じたマッチング支援に取り組む必要がある。

### 3. 若者の就労促進

「⑭ハローワークの職業紹介により正社員就職に結びついたフリーター等の数」及び「⑮学卒ジョブサポーターによる支援」については、2016年12月末現在、目標を達成した前年度の同期と同程度の進捗度合いであり、この水準で推移すれば目標達成が期待できる。

「⑯新卒応援ハローワーク」における正社員就職者数は、2016年12月末現在、目標を達成するための水準からは下回って推移している。引き続き、大学等との連携を緊密に図ること等により、未内定者等に対してきめ細かな就職支援を行う必要がある。

### 4. 高齢者の就労促進

「⑰生涯現役支援窓口でのチーム支援による就職率」のうち、55歳以上の就職率については、2016年12月末現在で2016年度の目標をわずかに下回っているが、今年度から特に重点的に支援している65歳以上の就職率については、目標達成に向けて順調に推移している。55歳以上の就職率の目標達成に向けては、「ニッポン一億総活躍プラン」に盛り込まれているように、更なる再就職支援の強化が必要であり、今後も、今年度から配置した高年齢者向けの求人開拓スタッフ等による求人開拓業務に注力する。

「⑱シルバー人材センターにおける会員の就業数」については、2016年12月現在で進捗率77.4%となっており、目標達成に向けて順調に推移している。